様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：３６１０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６６００８５

研究課題名（和文）母乳育児の継続に必要なサポート尺度ーカップルバージョンの開発ー

研究課題名（英文）Development of a support scale "The Couple Version" to the continuation of breastfeeding

研究代表者
森脇　智秋（MORIWAKI, CHIAKI）

徳島文理大学・保健福祉学部・准教授

研究者番号：９０５１５６２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,700,000円、（間接経費）　510,000円

研究成果の概要（和文）：育児のサポート尺度の開発は報告されているが、本研究では、母乳育児の継続に関するサポート尺度「カップルバージョン」の開発を目的にしている。最初に母乳育児をしている母親の夫にインタビュー調査を実施した。その結果と先行研究に基づいて、64項目の質問紙を作成し、200名を対象に調査を行った。因子分析の結果から、現時点では妻用は3因子18項目、夫用は2因子13項目が抽出されている。今後、更にデータを追加し因子分析を重ね、尺度の信頼性・妥当性について検討していく予定である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to develop a support scale "The Couple Version" to continuation of breastfeeding. Husbands of women, who were breastfeeding, were interviewed about supporting wives to continuation of breastfeeding. From the interviews, I developed a questionnaire of 64 items. Then, a questionnaire survey was conducted in 200 wives and husbands.
The 3 factors and 18 items in wives and 2 factors and 13 items in husbands were clarified in a factor analysis. I will continue the questionnaire survey and confirm the reliability and validity of the support scale.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学　生涯発達看護学

キーワード：母乳育児　継続　夫　サポート

１．研究開始当初の背景

母乳育児は、多くの母親の願いであり、WHO はじめ UNICEF などが中心となり世界的に推進されている。この母乳育児の継続には、心理的、身体的、社会的要因等多くの影響要因が明らかになっている。特に夫からのサポートは母乳育児負担感を軽減し、自己効力感を高める（中田,2008・Dennis,2002 ）という先行研究の成果は、夫への支援・教育の重要性を示唆している。

産後 3 か月の時点で夫のソーシャルサポートの「情緒的サポート」「評価的サポート」は母乳育児の場合に有意に高いことが明らかである（森脇,2011）。しかし、このソーシャルサポートは育児に対するものであり母乳育児の継続に必要なサポートではない。また、母親が認識する母乳育児の継続に必要な夫のサポートとして、「心の支えとなるかかわりがある」「授乳のための家事や育児の手助けをしてくれる」「経済的に支えてくれる」「夫に母乳育児に対する思いがある」「一個人として認めてくれる」の 5 つのカテゴリーが抽出された（森脇,2011）。母乳育児の継続に必要なサポートとして、「夫に母乳育児に対する思いがある」「一個人として認めてくれる」の新たなカテゴリーを抽出している。

サポートは提供側と受容側では認識が違い、認識によってサポート効果は変わってくる（尾見,2002）。そこで、母乳育児の継続に必要なサポートをどのように支援するかを明確にするため、カップルバージョン（夫の提供側・妻の受容側）で母乳育児の継続に必要なサポート尺度を開発する。

２．研究の目的

本研究の目的は、夫が認識する母乳育児の継続に必要なサポートを明らかにし、母乳育児の継続に必要なサポートサポート尺度“カップルバージョン”を開発することである。

３．研究の方法

１）夫が認識する母乳育児の継続に必要なサポートについて

調査対象者は母乳育児を 6 カ月以上継続している女性の核家族の夫 11 名を対象とした。調査期間は平成 24 年 5 月～平成 25 年 8 月であった。調査方法は、プライバシーが確保される場所で、半構成的面接調査をおこなった。データの分析は、夫がサポートしたと思われる内容に注目し、コード化、カテゴリー化を行った。また、母子領域の専門職 3 名からスーパーバイズを受けてデータの信頼性・妥当性を担保した。

２）母乳育児の継続に必要なサポート尺度の開発について

(1)尺度開発のプロセス

母乳育児の継続に必要な夫のサポートの概念分析,母乳育児する女性 7 名のインタビューから得られた受領する母乳育児の継続に必要な夫のサポート（森脇,2011）や母乳育児する女性の夫 11 名から得られた提供する母乳育児に必要な夫のサポート（本研究）のカテゴリーとローデータ、「育児サポート」の文献検討から参考にして、質問項目を追加し、言葉の表現を統一や修正した 67 項目アイテムプールを作成した。

内容妥当性を検討するために、母乳育児・子育ての専門家として、助産学分野 2 名、母性看護学・小児看護学分野の 3 名の大学教員に質問項目の検討を依頼して、質問項目内容が下位概念を偏りなく反映し、かつ適切に網羅しているか意見を求め、質問項目の削除と修正を行った。

表面的妥当性を検討するために、予備調査時に調査時に質問項目の表現の明瞭さや回答しやすさ等について評価依頼した。そこで言葉の表現の修正や重複していると思われ 3 項目を削除し 64 項目採用した。質問紙原案 64 項目の表面的妥当性について、ラクテーションコンサルタントの資格をもつ助産師に再確認した。

質問紙原案は、「共同作業」13 項目「育児環境」11 項目「情緒的サポート」12 項目「母子に対する愛情」12 項目「夫婦関係」6 項目「母乳への思い」10 項目、6 下位尺度で構成され、夫と妻に同じ質問項目 64 項目（逆転項目 3）であった。

(2)質問紙原案による調査

対象者は、産後 1 か月時に母乳育児（混合乳も含む）をおこなっている女性とその夫とした。予備調査は、平成 25 年 9 月～11 月の期間に 85 名に調査を行った。その後、質問紙原案を修正し平成 25 年 12 月～平成 26 年 3 月の期間に本調査をおこなった。調査方法は、研究協力機関において産後 1 か月健診に訪れた母親（妻）に、研究の目的について説明し同意を得て、質問紙に回答を得た。夫に関しては、産後 1 ヶ月健診時同席している方には、研究の目的について説明し同意を得て、質問紙に回答を得た。夫が同席していない場合は、研究についての説明文と質問紙の入った封筒を郵送し（妻に住所を書いてもらう）、回答いただいた質問紙を郵送にて返送にて回答を得た。またその後の母乳育児の状況について、追跡調査を行った。

分析ソフトには SPSS18.0　for Windows を用いた。

(3)倫理的配慮

夫が提供できる母乳育児の継続に必要なサポートの質的調査は、徳島文理大学の倫理委員会の審査（No24－1）　を得て実施した。

母乳育児の継続に必要なサポート尺度の開発の調査は、3 か所の研究協力機関の倫理審査を得て行った。

４．研究成果

１）夫が認識する母乳育児の継続に必要なサポートについて

(1)対象者の背景

対象者 11 名の職業は、会社員 5 名・公務

員3名･団体職員2名･自営業1名であった。不規則勤務の有無については、有り2名・無し9名であった。休日は、土日休み7名、週1日1名、不規則だが週2日2名であった。帰宅平均時間は、平均 19 時であった。妻の年齢は、23～41 歳（平均 30.3 歳）であった。授乳期間は、平均 12.2 か月で、初産 8 名・1 経産 3 名であった。

(2)抽出されたカテゴリー

母乳育児の継続に必要な夫が認識するサポートは、3 つの局面に分類され、7 カテゴリーと 19 のサブカテゴリーが抽出された。（表１）

母乳育児を継続する女性の夫は、【母乳育児する妻を大切にする】ために、『母乳育児する妻と子を大切にする』思いがあり、『夫婦関係を大切にする』ことを心がけていた。【母乳育児のための共同で作業する】ために、『家事や子育てを当たり前に一緒にする』し、『意識せずお互いにできることをする』ことをしていた。また、【母乳育児できる環境を調整する】ために、母乳の継続のために周りの協力を依頼する等『母乳に専念できるように環境を整える』ことをしたり、『母乳育児ができるよう妻の心身を労わる』ことをしたり、『母乳育児の想いを持ちながら妻を見守る』ことをしていた。

表１　母乳育児の継続に必要な夫が認識するサポート

側面	カテゴリー	サブカテゴリー
母乳育児する妻と子を大切にする	母乳育児する妻と子を大切にする	母乳育児する妻の気持ちに寄り添う
		妻の気持ちを察しながら動く
		妻の育児を認め感謝している
		母乳をほしがる子どものことを思っている
	夫婦関係を大切にする	二名の時間を大切にしている
		夫婦お互いに認め合っている
母乳育児のために共同で作業する	家事や子育てを当たり前に一緒にする	当たり前に家事をする
		ひとりで子どもの世話をする
		家事や育児を一緒にする
		できる限り一緒に過ごす
	意識せずお互いにできることをする	お互いにできることをする
		何かをしている意識はない
母乳育児できる環境を調整する	母乳に専念できるように環境を整える	母乳に専念できるようにする
		母乳できる環境を整える
	母乳育児ができるよう妻の心身を労わる	気持ちが安らぐように配慮する
		母乳の状態を知り妻の身体を労わる
	母乳育児の想いを持ちながら妻を見守る	母乳に対する想いを持っている
		母乳育児にこだわらず妻の思いを見守る

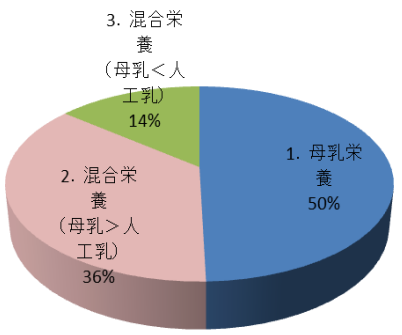
２）母乳育児の継続に必要なサポート尺度の開発について

(1)調査対象者

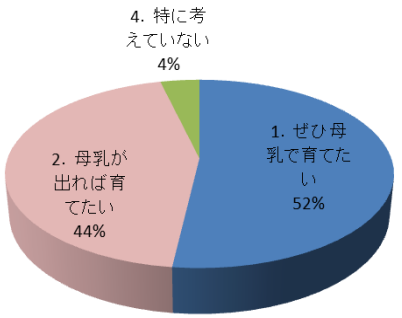
本調査の現在データ収集できているサポート項目に欠損がないものを分析対象とした。女性（妻）の有効回答 179 名（有効回答率 90%）夫の有効回答 87 名（夫の回収率は 44%）を分析した。

対象者の属性は、妻の平均年齢 31.7 歳（SD4.5）、夫の平均年齢 33 歳（SD5.5）であった。初産婦 87 名(49.6%)経産婦 92(51.4%)名であった。妻の職業は、主婦 101 名・会社員 51 名・公務員 7 名・自営業 7 名・パート 6 名・その他 7 名だった。

研究対象者の女性の授乳の状態は図①、母乳に対する考えは図②に示す。



図① 授乳の状態



図② 母乳に対する考え

(2)抽出された因子

64 項目の質問項目の天井効果とフロア効果を確認し、平均点＋標準偏差 5.0 以上、平均点-標準偏差 1.0 以下を妻の 12 項目、夫 28 項目を削除した。次に項目間の相関を確認し、相関係数.70 以上の基準を設け、質問項目内容を吟味し、専門家の指導を受け回答しやすい項目を残し妻 15 項目、夫 5 項目を削除した。妻への質問 27 項目、夫への質問 23 項目を用いて因子分析（主因子法，プロマックス回転、スクリープロットで因子数を決定）を因子負荷量. 40 以下の項目は削除しながら繰り返し分析をおこなった。最終、妻の「母乳育児の継続に必要なサポート尺度」は第 3 因子 29 項目、夫の「母乳育児の継続に必要なサポート尺度」は第 2 因子 24 項目抽出できた。この研究はサポートのお互いの認識を測る尺度の為、夫側の 2 つの因子と質問項目は妻側の 2 つの因子と同じような因子が抽出され同じ質問項目が残った共通の 13 項目を採用し、再度因子分析を行った。妻への「母乳育児の継続に必要なサポート尺度」は第 3 因子 18 項目、夫への「母乳育児の継続に必要なサポート尺度」は第 2 因子の 13 項目が抽出できたが、夫の因子の信頼性係数が安定しないため、更にデータを集めて分析する必要性がある。

今後、尺度開発に向けて、更に多くのデータ収集を行って分析し、尺度の信頼性と妥当性について検討を行い報告していく予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計３件）

1. 森脇智秋・川西千恵美：母乳育児における夫のサポートに関する研究の動向，第 25 回日本看護研究学会中国・四国地方会学術集会，2012,3 月 6 日

2.Chiaki Moriwaki ・Sachi Kishida・Chiemi Kawanishi・Mari Haku:
THE HUSBAND’S SUPPORT FOR BREAST-FEEDING :DIFFERENCES BETWEEN A BREAST-FEEDING GROUP AND BOTTLE-FEEDING GROUP IN THE THIRD MONTH AFTER CHILDBIRTH,The 16th EAFONS Developing International Networking for Nursing Research,2013,2 月

3.森脇智秋・岸田佐智・葉久真理：夫が認識する母乳育児の継続に必要なサポート,公益社団法名第 4 回(28 回)日本助産学会,2014,3 月

〔図書〕（計　０　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　０　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：4
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

なし

６．研究組織

(1)研究代表者

森脇　智秋（MORIWAKI CHIAKI）
徳島文理大学・保健福祉学部・准教授
研究者番号：90515628

(2)研究分担者

岸田　佐智（KISHIDA　SACHI）
徳島大学・ヘルスバイオサイエンス研究部・教授
研究者番号：60195229

古川薫（FURUKAWA　KAORU）
徳島文理大学・保健福祉学部・助教
研究者番号：10448334

古本奈々代（FURUMOTO　NANAYO）
徳島文理大学・人間生活学部・教授
研究者番号：90238692

川田美由紀（KAWATA　MIYUKI）
徳島文理大学・保健福祉学部・講師
研究者番号：10518070

川西千恵美（KAWANISHI　CHIEMI）
国立看護大学校・教授
研究者番号：40161335